

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS 神戸)

市民



フロンティア

2014年 10 月25日発行 通巻 74



NPO 法人神戸ライフセービングクラブ



NPO 法人コミュニティかりば



認定 NPO 法人フードバンク関西



こまめ屋

Attention
News!

社会のために主体的に活動する人々を応援します！

CS神戸 2014 年度上期

「市民活動サポート基金」・「スマイル♥テッド基金」、交付団体を決定

9 月 19 日、「市民活動サポート基金」および「スマイル♥テッド基金」の審査会が開催され、後述の通り 4 団体への助成が決定しました。(市民活動サポート基金：3 団体、スマイル♥テッド基金：1 団体)

「スマイル♥テッド基金」は、元 CS 神戸事務局長の国枝哲男氏の遺志でいただいた寄付(50 万円)で創設しました。初の交付が決定したのは、毎週火曜日に CS 神戸の事務所前で丹有地域の野菜販売をしている「こまめ屋」です。

以下、「市民活動サポート基金」および「スマイル♥テッド基金」交付決定団体のご紹介です。

NPO 法人神戸ライフセービングクラブ(助成額 200,000 円)

事業名:ライフセービング人材育成プロジェクト

「水難救助の資格はコミュニティのために活かしてこそ意味がある」とライフセーバー達で設立した NPO 法人。須磨海水浴場を中心に、水難事故を防ぎ、水辺の安全で楽しい利用促進のための活動を行っており、将来的には「海の公民館」を創ることも目標としています。助成金は活動に必須なレスキューボードに活用予定です。



NPO 法人コミュニティかりば(助成額 150,000 円)

事業名:お困りごとサポート事業

神戸市西神地区の狩場台・糺台は、入居後 30 年を経過し、高齢化が急激に進んでいます。安心して住み続けられる地域づくりを目指し、継続的に活動ができる体制作りを進めています。助成金は、日常生活のちょっとしたお困りごとのサポートをするために必要な用具などの購入に活用予定です。



認定 NPO 法人フードバンク関西（助成額 300,000 円）**事業名:「食のセーフティネット」事業における食品の搬送と管理のレベルアップ**

食品関連企業では大量の余剰食品が安全なのに廃棄されている一方、支援を必要とする人達に十分な福祉の手が届かず、貧困が深刻な問題になっています。この両端をボランティアが繋ぎ、企業や個人から余った食品を回収し、支援先の団体等に届ける事業を行っています。今後も食糧の種類と量を増やし、充実した食の支援が出来るようボランティアの活動に助成金を充当予定です。

**こまめ屋（スマイル♥テッド基金/助成額 100,000 円）****事業名:野菜販売による地域活性化事業**

三田・丹波地方で生産される野菜を多くの人たちに食べていただくために、生産者から信頼され、消費者がリピートするようなサービスを提供できる販売者が必要となります。そのため、こまめ屋は口コミで販売拠点を増やしなが、よりシンプルな流通システムの構築を目指しています。将来的には、丹有市域の野菜をブランド化する事で知名度を上げ、地域の活性化を目標としています。助成金は、野菜の保存用冷蔵庫等の購入に充当予定です。

**介護予防・日常生活支援総合事業****“新たな担い手”の養成が始まります！**

「生活・介護支援サポーター養成研修事業」は、進行しつつある超高齢社会に備え、地域の高齢者の生活ニーズに応える仕組みを安定的・継続的に構築するため、市民の主体性に基づき運営される新たな住民参加サービス等の担い手を養成するものです。

「生活・介護予防支援サポーター」と名づけ、地域で高齢者の生活を支える活動を創出することを目的とし、養成研修および修了後の活動支援を行う事業です。

神戸市では 9 月に事業実施にあたる団体の公募があり、CS 神戸では「介護予防・総合事業に関する神戸研究会」を母体に応募したところ、めでたく委託事業者として決定したものです。「介護予防・総合事業に関する神戸研究会」で 2012 年度から検討を重ね提案してきた“担い手養成”の部分にあたり、受託に至ったことは研究のひとつの成果と言えます。

全国的には 2015 年度から始まる改正介護保険の基本を支える新地域支援事業ですが、神戸市では一足はやく東灘区をモデル地区とし実験事業をスタートさせます。地域サロン、見守り、外出支援、家事支援、配食など、あれば助かるサービスは、専門職とは別に身近な担い手が必要です。神戸市内でおよそ 25 万人の元気高齢者が、互い様の気持ちで助け合う活動に参加できれば、地域の安心といきがいが一挙に実現できます。

5 日間講座と 1 日実習で神戸市から修了証発行

研修は、11 月 20 日から 2 月 5 日の 2 ヶ月半に、5 日間（15 コマ）の座学研修と 1 日の体験実習をカリキュラムとし、シニアを中

心に 70 名の定員で担い手養成に取り組みます。

日程	講義時間	講座名
2014 年 11 月 20 日（木） 第 1 回 研修	開校式	2014 年 11 月 20 日（木）
	1 - 1 講	「全体オリエンテーション」 「生活・介護支援サポーターの基本理解」
	1 - 2 講	「生活・介護支援活動のケーススタディ」
	1 - 3 講	「超高齢社会の現状と高齢者を取り巻く実態」
12 月 4 日（木） 第 2 回 研修	2 - 1 講	「介護保険制度と生活・介護支援の取り組み」
	2 - 2 講	「生活・介護支援サポーターロールプレイング」
	2 - 3 講	「高齢者等の心とからだ」
12 月 11 日（木） 第 3 回 研修	3 - 1 講	「生活・介護支援サポーターに必要な介護技術」
	3 - 2 講	「認知症サポーター養成講座」
2015 年 1 月 8 日（木） 第 4 回 研修	4 - 1 講	「高齢者等への対応に伴うリスク管理」
1 月 8 日～2 月 4 日 現場体験実習	4 - 2 講	「あんしんすこやかセンター等関係機関との連携と協働」
2 月 5 日（木） 第 5 回 研修	4 - 3 講	「生活計画書（マイスタープラン）作成演習」 「現場体験実習事前オリエンテーション」

専門性より地域の助け合いの精神に基づく活動を基底としており、これまでも同様の研修はありましたが、神戸市が直接関与し修了証を発行するのは初めてです。また経験豊富な実践的講師陣です。

地域での支え合いや助け合いに積極的に参加し、安心といきがい自ら生み出し、どのような状態になっても暮らし続けることのできる神戸の町（地域包括ケアシステム）を、自らも関りながら実現させる道筋の第 1 歩として重要な研修です。受講のお問い合わせは、CS 神戸まで。

（中村）

指定管理者の管理運営に対する事業評価（平成 25 年度）において、高評価をいただきました。

神戸市では、指定管理者制度導入の趣旨である市民サービスの向上等が適切に図れているかを検証するため、指定管理者を対象に管理運営に対する評価が毎年度行われています（「AAA」から「C」の 5 段階）。CS 神戸は、2 施設い

ずれも高評価を得ました。
特に「AAA」の評価を受けた、東灘区民センター小ホールは、利用者数の高いレベルでの維持・地域特性に合致した事業展開が、高評価獲得の要因となりました。

指定管理者に対する評価/公募施設（650 施設中 AAA→ 4 施設 AA →529 施設）

■東灘区民センター小ホール AAA（25 年度 AA）

選定評価委員会の評価

- ・利用者数を高いレベルで維持しており、高く評価できる。
- ・アンケート件数が若干少ないが、満足度はおおむね高い。
- ・来館目的に対するサービスや広報については改善の余地があると思うが、地域特性に合致した事業展開は評価できる。

■JR 住吉駅前駐輪場 AA（25 年度 A）

選定評価委員会の評価

利用台数は微増しており、利用者満足度も 82%と高い。利用率向上に向けた具体的な取り組みやサービスを提供しており、地域の障害者の社会参加や、高齢者雇用対策にも積極的に取り組んでいる点も評価できる。今後も引き続き、利用者満足度の向上に努められたい。

地域活動事業部／東灘区民センター小ホール

地域の方々にさまざまな学びの場を提供していきます！

夏休み子どものための能楽体験教室を開催【地域文化活性化事業】

日本の伝統芸能である「能」を子どもたちに体験して頂きました。能楽、金春流太鼓方上田慎也先生に 5 回通しで 8 名の子どもたちが夏休みに特訓を受け、最後には観世流シテ方に参加していただき発表会を行いました。能楽太鼓に初めてふれることは、素晴らしい体験で、参加体験型で内在する創造力が引き出され、体も心も活性化していくことは、かけがえのない体験になったと喜ばれました。（兵頭）



発表会の様子

親子防災教室を開催します。11 月 15 日（土）9:45～12:15/参加無料

阪神淡路大震災から 20 年。地震と津波から命を守るための対策や魚崎地域の防災対策を知る機会です。ご家族一緒に考えてみませんか？
※この事業は「子どものための児童館と NPO の協働事業」の一環として実施します。

内 容：◆魚崎町の防災対策（津波対策）、◆親子防災ワークショップ（非常食作りと試食他）

募集人数：20 家族（必ず保護者が参加してください）

★参加者には、「防災グッズ」のプレゼント

申込み／問合せ先：魚崎児童館 078（453）2662



地域活動事業部／JR 住吉駅前駐輪場

気持ち良く利用していただける駐輪場を目指した活動を

駐輪場では、午前と午後にスタッフが巡回し、代金を未払いのまま駐輪している自転車・バイクをチェックしていますが、月平均で延べ 1400 日くらいの未払いがあります。その事情は様々で、神戸市は新たな対策を検討しています。

そのことを受け、CS 神戸が管理する JR 住吉駅前駐輪場では、未払い利用者への対策を強化することにいたしました。昨年の 7 月も改善をはかり、その結果、未払いの回収率が数パーセントほど改善しています。今回の変更でさらなる改善を目指したいと考えています。また、同時に利用者が事務所へ足が向きやすい環境づくりに引き続き進めていきます。

その他の業務改善として、業務の効率化とミスを低減するためパソコンの利用を実験的に開始しました。みんなで教え、カバーし合いながら少しずつ進めています。

駐輪場はルーチン業務主体で地味な職場ですが、学習しチャレンジする集団でありたいと願っています。（岡本）

駐輪場スタッフ便り「ひと言」

現場リーダー 檜谷 實

私は、CS 神戸が駐輪場を担当する前の 1998 年から勤めています。当時はシルバー人材センターが運営していました。

16 年前は、現在よりも駐輪スペースがもっと狭く、そのため道路に放置される車両が多く、通行できない有様でしたが、現在は、そのような迷惑駐輪も少なくなりました。乱雑していた場内の整理や清掃も行き届くようになり、今年は、兵庫県やセブンイレブン財団からいただいた草花を植えるなど、利用者の方々も喜んでいただいているものと思っています。

これからも整理整頓、清潔、挨拶を心がけて頑張りますので、よろしくお願いします。

地域活動事業部／生きがい活動ステーション

今年 6 月に六甲道勤労市民センターのロビースペースに設置された「生きがい活動ステーション」は、毎月情報提供者約 800 名、相談件数 50 件程度で推移しており、ボランティアをはじめとした地域活動とのマッチングも順調に進んでいるところです。

「おひとりさまの新しい地域ライフ」、「ボランティアはじめての一步」などのテーマで毎月開催している『交流サロン』や、灘区近辺で様々な活動を展開されている実践者の方をお招きする『市民塾』も、回を重ねるごとに新たな参加者が増え、人の輪が広がっています。

その中でも最も利用が多いのが『トライやるサポート』。これは「自宅を使ってママさんが交流できるサロンをやっていたが、自宅以外でもサロンをやってみたい。だけど会場や人集めなどすべて自分でやるのは



市民塾受講生のみなさん

オープンから 3 ヶ月が経ちました！

不安」、「認知症予防に効果があると言われている臨床美術士という資格を取得したが、まず少人数でどのような講座にするか検討したい」といったニーズにお応えし、当ステーションのスペースを利用して“お試し”ができるというプログラムです。生きがい活動ステーションが共催という形式で広報や当日の運営をお手伝いすることで、立ち上げ時の助走期間を応援する仕組みです。今後も増えそうな予感です。

スタートしてまだ 4 ヶ月ですが、これからも寄せられるニーズに柔軟に対応し、地域活動のコーディネート機関としてお役に立てれば、と思っています。（飛田）



交流サロンの様子

地域活動事業部／まちづくりスポット神戸

昨年 12 月垂水区に誕生した「まちづくりスポット神戸」。地域の方々に少しずつ周知され、来館者数・まちそでて相談件数も徐々に増え、登録団体も現在 25 団体となりました。

会を立ち上げたばかりの 3 団体は、「まちスポ神戸はじめての一步助成金」獲得に向け申請書を作成し、初のプレゼンテーションにトライ。皆さん緊張の面持ちでしたが、審査の結果、助成金（上限 3 万円）交付が決定し、その助成金を基に活動がスタートしました。

まちそでて相談では、「最初は面倒だと思ったけれど、会則をつくることで、改めて自分がやりたいことを整理することが出来、方向性も見えてきた。活動も楽しみになってきた。」とのメールをいただくこともあります。



助成金審査会での質疑応答の様子

「暮らしつづけたいまち」を目指して！

また、7 月～8 月に実施したまちそでて講座のディスカッションで「多世代交流ができるワークサロンをつくりたい」との意見が出ました。本格的な活動に移る前のトライとして空き店舗を使って、「今日だけカフェ くつろぎサロン」を 10 月に実施することになりました！トライすることで見えてくる課題や成果、あらたなつながりも楽しみです。

まちスポ神戸では、助成金申請や会則作成も初めての“地域活動初心者”が多いのも特徴です。今後も「地域のために何かやってみたい。」というみなさんの思いを大切に、活動をはじめの方のあとおし機能を充実させていきます。（向山）



まちそでて講座での様子

市民活動事業部／生きがいごとサポートセンター神戸東

ひょうごコミュニティ・ビジネス 1 day スクール開催報告

7月12日(土)、神戸クリスタルタワーにて、生きがいごとサポートセンター(6団体)と日本政策金融公庫の共催で「ひょうごコミュニティ・ビジネス 1 Day スクール」を開催しました。

例年はCB(コミュニティ・ビジネス)フォーラムとして講演を主体に実施してきましたが、今年はCBの実際をより深く学べることを目的として、高齢者支援、まちづくり、子育て支援、社会的弱者支援、資金調達というテーマ別にパネルディスカッションの形態で実施しました。以下、様々な地域課題に取り組むCB実践者の方からのコメントの抜粋です。



当日の様子

- 「状況がシステムティックになってくると、システムにはまらないところが多くなり、社会にないのであれば自分たちでやろうとしたのが、きっかけ」
- 「事業計画のために、思いを数字で表すのに苦労したが、“まず動く。行動する”姿勢と仲間の存在で乗り越えた」
- 「弾丸スタートだったので、ミッションの共有ができず、組織内の人間関係に問題があった。周りとの対話回数を増やすことを心がけたら良い方向に向かった。」
- 「事業が広がるキーワードは人とのつながり」
- 「常々、何度もやめようと思うが、感謝の言葉を聞くともう少しだけ、ということの繰り返しで15年以上、継続できている。」
- 「CBで大切なのは、身の丈にあったこと、自分の好きなことをする。得意な面を持ち込む。やり続ける事が大切です。」
- 「0を1にするのがNPO。1を100にするのが企業、100を10000にするのが政治。1にしないと、始まらないと考えている。それを実現に向けていくのがNPOの醍醐味。」

受講者からは「テーマ別に活動のヒントをもらえた」「具体的な事例が数多く聞け、起業の参考になった」などの声が多く、一歩踏み出すきっかけとして捉えていただける機会となりました。

(狩野)

市民活動事業部／全県活性化事業

丹波地区のさらなる地域活性化を目指した取り組み

丹波市地域でのコミュニティ・ビジネス(CB)起業・就業支援を拡充するために、年度当初から活動し、半期経って次のような進捗状況です。

(1) 中間支援組織の誕生

丹波市において、中間支援組織としてのNPO法人設立が進行中です。発起人の方々が、CS神戸にも相談をしながら組織づくりや申請書類作成を進め、兵庫県に申請が受理されました。12月に「NPO法人 gift」が認証される予定です。

(2) 起業支援講座の開催

起業支援の講座を効果的に行えるよう、市と役割分担しながら進めています。内容は、裾野を広げる「地域プロデューサー養成講座」(市主催)、CB起業するための「初級講座」・「実践塾」(市・CS神戸共催)です。

残念ながら8月の豪雨・土砂被災により、プロデューサー講座の回数半減、初級講座は中止になりましたが、実践塾は10～11月に開催します。少人数制で、マーケティング手法を活用した事業計画作成が目玉です。地元の人材発掘・育成を狙い、講師に若手を起用しました。

(3) 商工会議所との共有化

この4月、丹波市商工会議所に、新たに起業家支援窓口「チャレンジカフェ」が設置されました。全県活性化事業と重なる部分があり、両者の位置づけ・役割について商工会議所とのすりあわせ、共有化を行いました。

(4) 見学バスツアー

全県活性化事業は、丹波地域のほか、但馬、淡路地域を含め県内6生きサポが分担して展開しています。CB理解のため「百聞は一見に如かず」を実践し、11月に各地域の先進起業団体を見学するバスツアーを行います。丹波地域は29日(土)に4ヶ所を訪ねることになり、参加者募集中です。

(藤井)

市民活動事業部／研修関連事業

6 月から地域活動を総合的に学ぶ「社会貢献塾」、シニアを中心とした、24 名の受講を得て 9 月 10 日にすべてのプログラムが修了しました。座学を中心とした前期では、多文化共生、高齢者、障がい者、観光等の NPO や自治会等でご活躍の方々をゲストスピーカーとしてお招きし、地域活動の実際を伝えていただきました。

後期では居住地ごとに 5 つの班に別れ、講座ではなくグループワークを軸に進めました。会場を飛びだして NPO の現場や地域福祉センターを見学し、区役所、社会福祉協議会、大学ボランティアセンター、NPO 法人等へ地域調査にも出向きました。そして最終日には、見たこと、調べたこと、感じたことを総動員して「住みたいまち」をテーマに、グループで検討した企画を、模造紙一枚にまとめて発表。壁一面に掲示された熱意のこもった成果物は、壮観でした。

「“家内に日中は外に出とって”と言われて・・・」、「何から始めていいのか、わからなくて」、「定年したら友達がいなくなって」など、受講の動機は様々でしたが、終了後、すでに約半数の方が高齢者の

2014 年度社会貢献塾が修了しました！

ゴミ出しのサポートや外国人の日本語ボランティア等、何らかの活動を開始されています。今後も個別相談を継続し、一人でも多くの担い手が生まれるよう、サポートできればと考えています。（飛田）



受講生全員で記念撮影

市民活動事業部／視察研修

さまざまな受入れを行いました。

タイ行政・NPO 団体の視察

5 月 27 日～30 日までの 4 日間、タイ行政の関係者、NPO 関係のメンバー約 40 名が、日本の NPO の取り組みやまちづくりを視察するため、来日されました。

視察内容は、ひょうごボランティアプラザで、行政の NPO 支援への取り組みについて説明を受けた後施設見学を行い、また別日には、地域活性を目的に活動する NPO 団体への視察の他、CS 神戸にも来られました。CS 神戸では、設立からこれまでの活動の紹介をしましたが、皆さん、スタッフの説明に熱心に耳を傾け、日本の女性の社会進出の現状等、たくさん質問を受けました。CS 神戸からもタイの NPO 事情を質問して情報交換を行いました。また、まちづくりスポット神戸の視察では、企業と NPO の協働事業についての取り組みに高い関心を持たれたようでした。

参加者からは、この視察で得たことをタイに持ち帰り自分たちの団体での活動に生かしていきたいとの声が聞かれました。（柳田）



ひょうごボランティアプラザ
施設見学（左）
CS 神戸の活動を聞くタイ
視察団一行（下）



神戸学院大学インターンシッププログラム受入れ

9 月 9 日～12 日までの 4 日間、神戸学院大学の学生 2 名が CS 神戸でインターンシップ研修を行いました。

この取り組みは、神戸学院大学が学生たちに多様な就業体験を通して、働くことに対する理解を深め、将来の進路選択に役立ててもらうことを目的とし実施しているもので、毎年、CS 神戸は受け入れを行っています。

終始、緊張ぎみの学生たちでしたが、4 日間の就業体験では、本部での事務作業のほか、まちづくりスポット神戸でのベビー

ガーデンのサポートを行い、かわいいベビー、ママたちとふれあいました。また、社会貢献塾ではグループワークに参加し、「住みたいまち」の発表内容を一緒に考えました。

NPO での就業体験は、学生さんたちの想像を超え、考えていたよりも大変だったとのことでしたが、4 日間の就業体験を通じ、NPO の社会的役割と社会に出るために必要なスキルは何かを学びとってくれたようでした。（柳田）

市民活動事業部／外部評価・公表調査

外部評価の 3 年目を迎えて

あの暑い日、垂水区郊外にある事業所を探しながら、街路樹の影を求めてさ迷ったのは 2 年前のことです。おかげさまで、CS 神戸の外部評価事業は、今年で 3 年目を迎えました。これまで、外部評価員研修を受講したのは 8 人、現在も 7 名の仲間たちと一緒に仕事をしています。

私たちの時間をかけた丁寧な評価結果は、他評価機関の方々から感心をいただいております。徐々に事業者様にも、CS 神戸独自の評価方法について高評価をいただき、認知されつつあります。

評価訪問をする際は、新しい特色をひとつでも多く聞き出すことを心掛けています。ここで、評価訪問後に実施するアンケートでの一事業所の回答をご紹介します。「これで 3 年目となりました。毎回のことですが、今回も新たな気づきをいただき有難うございました。」とのこと。ふと、昔、ドイツの大学で研究をしていた時、数日間ごとに研究室へ来る教授の「Etwas Neues（何か新しいこと）!?!」言葉を思い出しました。どの分野でも使われる言葉でしょう。（小林）



CS 神戸外部評価内部検討会

評価で心がけていること

訪問評価後、評価委員の中で、何度も評価項目について議論を重ねます。その際、評価委員が訪問時の聞き取り調査の際に気付いたことなど、どんな些細なことでも意見を出すことで、事業所の優れた特色をさらに生かすことができるよう心がけて評価結果の作成を行っています。

市民活動事業部／東日本大震災支援

東北の被災地は、震災から 3 年半を迎えました。

現在の大槌町は、被害の大きかった沿岸部あたりに 4 メートルもある盛り土があちこちに小高い山のように連なり、やがて建設される予定の町や住宅がかすかに想像できる状況までになりました。

現地の復興に伴い、さわやか福祉財団と共に活動してきた内容は、支援者と非支援者という関係から、互いが対等のパートナーとして、誰もが生きがいと役割を持って暮らせる新しいふれあい社会を築く、協働者の関係へと移ってきています。

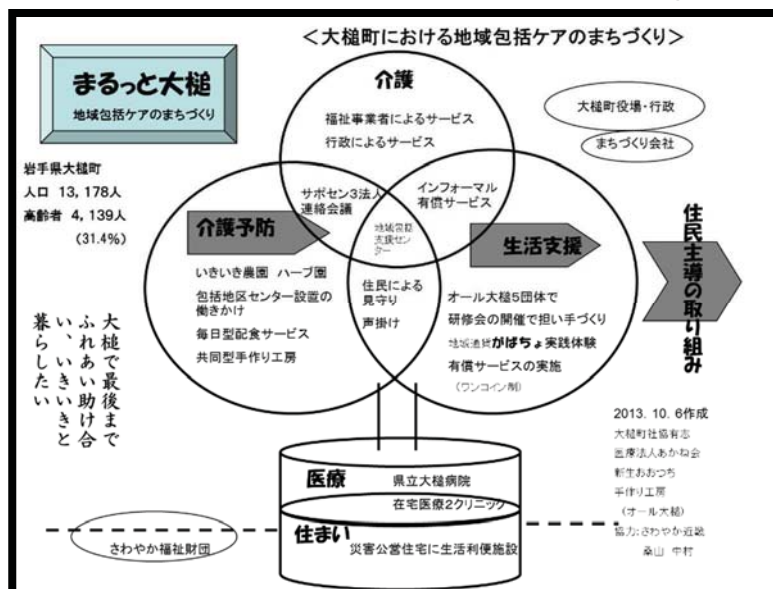
取り組みのひとつとして、「まるっと大槌・地域包括ケアシステム講座」で「今こそ真剣に考えよう、地域の助け合い」と題して、現地の居場所・ふれあい農園・手作り工芸・移動送迎・見守り配食・地域食堂等の活動を、これからどのように住民参加型の継続した地域サービスとしていくのか、地元 15 団体が話し合う場が設定されました。「ぐるっと大槌」・「新生おおつち」・「芽でるカー」・「ワーカーズコープ」・「社協」・「あかね会」・「堤福祉会」・「地域包括支援センター」・「老人クラブ・複数自治会の構成で、地域団体や NPO、そして介護事業所に役所が入っており今後大槌町での包括的ネットワークの基礎となる協議体として期待ができます。

動き始めた大槌町での地域包括ケアシステム勉強会

10 月 22 日開催の会議にはこちらからは中村はじめ、さわやか福祉財団や公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構が、改正介護保険におけるガイドラインや神戸での事例などの情報を提供し、多くの住民の皆さんが大槌に留まり若い住民も積極的に地域活動に参加されるよう、議論を共有できればと考えています。

なお、大槌応援復興地域通過「がばちよ」は大槌町各地で説明会と体験会を開いておりまもなく本格運営にはいる見通しとなっています、寄付金など応援いただきましたみなさんへの感謝と中間報告です。引き続きよろしくお願いいたします。

（中村）



丹波市豪雨被害による募金活動 報告

皆さまの温かいお気持ちに感謝とお礼を申し上げます。

丹波豪雨被害による募金活動にご協力いただき有難うございました。多くの皆様からご厚意に心からの感謝と共に報告いたします。

皆様からお寄せいただいた募金総額は、70,571 円となりました。この募金については、丹波で被災された方々への支援活動をされている団体へ寄付いたします。

■ 寄託先明細

■ NPO 法人 T プラス・ファミリーサポート 20,000 円

【無料託児所】

託児室 T プラスにて、災害復旧作業のため、ボランティアに行きたいお母さんのために小さなお子さんを無料保育。

■ NPO 法人 サウンドウッズ 15,000 円

【がれき等の撤去作業】

大変大きな被害が出ている丹波市市島町徳尾へ出向いて、住宅床下の泥の除去や、家屋周辺の堆積物の撤去作業。

■ つなごう丹波 35,571 円

【がれき等の撤去作業およびボランティア支援】

住宅床下の泥の除去や、家屋周辺の堆積物を撤去する作業のほか、丹波の若者達が行う復旧活動に対する支援。



会員 寄付 お礼 応援、ありがとうございます。

(2014 年 6 月 16 日～9 月 30 日)

檜森 絹代、弓削 一、直田 春夫、與口 修、大草 美代子、植戸 貴子、福田 菊、角田 敏子、保科 正彦
井上 隆文、伊谷 須美子、西村 尚士、河村 ゆき江、黄田 昭子、大野 利恵、瀬戸口 延恵、尼川 洋子
中村 大知、新庄 達也、林 律子、藤本 傑士、森田 正純、長澤 マリ、樋口 孝子、伊東 恭子、野津 隆志
星野裕志、木幡 幸雄、太美 京、荻野 俊子、小林 るみ子、鈴木 明与、井上 雅晴、桑山 信子、臼井 隆夫
岸 千尋、山内 正太郎、宮下 隆二、更谷 怜治、岡田 進、NPO 法人わだち、NPO 法人婚活せわやき隊
市橋クリニック、医療法人明倫会 宮地病院、櫻井 繁樹税理士事務所、中村 順子、村上 義弘、飛田 敦子
向山 良子、匿名 1 名 (順不同)

2014 年度の会費継続をお願いします

市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会 費】 個人会費：3,000 円／年 団体会費：10,000 円／年

【振込先】 名 義：NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替：00950-2-144205

前号で一部掲載もれの方がおられました。

今号であわせて掲載させていただきます。

申し訳ありませんでした。

編集後記

高齢化社会が加速する中、老若男女問わず、たくさんの人が、積極的に社会活動に参加すれば、地域は活性化し、自分が理想とする安全で住みやすい街に変わっていく、なんて考えたことはありませんか？

CS 神戸では、誰もが社会活動へ参画できるよう、学びの場、コミュニティの場をこれからもどんどん提供していきます。乞うご期待！

認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS 神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310 FAX：078-841-0312 E-MAIL：info@cskobe.com

URL <http://www.cskobe.com/>

2014 年 10 月 25 日発行 通巻 74 号 発行人：中村順子 編集人：柳田さおり